

## 6 | リスクコミュニケーションのすすめ

### リスクコミュニケーションとは

この冊子で取り上げたいいくつかの場面に示されているように、化学物質による環境汚染に不安を感じたとき、市民が、積極的に企業や行政に関わり合ったりするなどしてコミュニケーションを図ることは、化学物質に関する問題を明確にとらえ、安全・安心を確保する上でとても重要なことです。

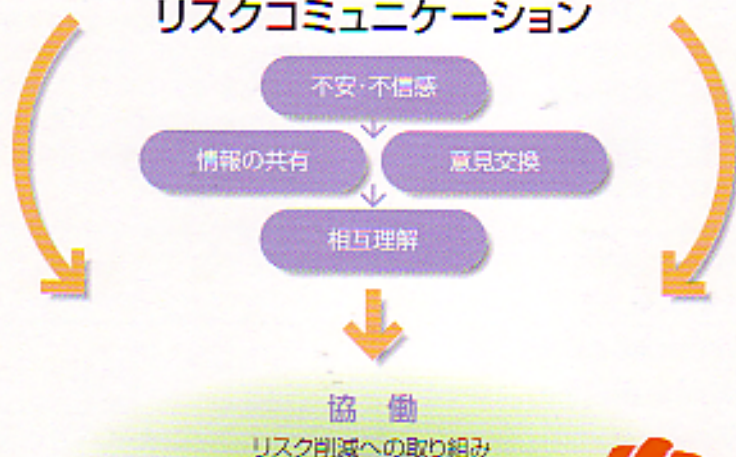
化学物質による環境リスク(p.15参照)に関する正確な情報を、市民・企業・行政などのすべての者が共有しつつ、お互いに意思疎通を図っていくことを、「リスクコミュニケーション」と呼んでいます。

現在の化学物質による環境汚染は、発生源を特定したり、人の健康や生態系への影響を明確にすることが容易ではありません。このような問題に対しては、個々の物質を規制するだけではなく、地域全体で化学物質による環境リスクを削減していく必要があります。リスクコミュニケーションとは、PRTRデータなどの情報を市民・企業・行政の間で共有し、環境リスクをどのように受け止め、管理し、低減するのかが話し合っていくもので、市民・企業・行政のそれぞれが取り組みを進めるための基盤となるものです。





## リスクコミュニケーション



## リスクコミュニケーションに参加してみても

化学物質に関して不安や疑問を感じているのなら、いろいろな機会を捉えて積極的にリスクコミュニケーションに参加してみてもどうでしょうか。行政の担当者や市民団体(NGO・NPO)などに問い合わせれば、例えば、都道府県によるPRTRデータの説明や企業による住民への説明といったさまざまなコミュニケーションの機会について情報を得る

ことができます。

また身近にリスクコミュニケーションの機会がなければ、行政や市民団体(NGO・NPO)、企業などに対して、自分がどのような問題に関心があるのかを伝え、リスクコミュニケーションの場を設けることができないか、ぜひ相談してみてください。

化学物質に関するリスクコミュニケーションでは、日頃なじみのない化学物質の名称や単位などが出てくることが多く、専門知識のない市民にとっては、なんとなくとっつきにくい感じがするかもしれません。

身構えたり、緊張したりしては、十分なコミュニケーションを図ることができません。また、実際に行われたコミュニケーションがどうだったか、参加者がお互い評価しあうことが、より良いコミュニケーションにつながります。リスクコミュニケーションに参加する場合には、以下のようなポイントに気をつけてみてはどうでしょう。

#### (1) 私は、リスクコミュニケーションの前に

1. 疑問点や問題点について誰かと話したりメモを作った
2. 企業や工場に資料を請求したり、問い合わせた
3. 自治体の窓口で資料を請求したり、問い合わせた
- 4.パンフレットや環境報告書<sup>1)</sup>を入手した
5. PRTRデータを見た
6. 参加する会合の目的・趣旨を理解した
7. 環境カウンセラー<sup>2)</sup>など第三者に相談してみた

#### (2) 私は、リスクコミュニケーションの場で

1. 相手の話に冷静に耳を傾けた
2. 感情的にならなかった
3. 分かりやすく話せた
4. 疑問は解消できた
5. 問題に対する理解は深まった

#### (3) 企業や行政による説明会は

1. コミュニケーションの機会について事前に十分な周知・案内が行われた
2. 会合の目的・趣旨は明確だった
3. 参加者の人数や構成は適当だった、偏っていなかった
4. 主催者側からは、参加者の質問や意見に対応できる人物が出席していた
5. 分かりやすい資料が準備されていた
6. 説明は分かりやすかった
7. 質問には回答してもらえた
8. お互いに十分発言ができた
9. お互いに相手の意見に耳を傾けた
10. 時間は適当だった
11. 相互の理解が深まった
12. 次回以降の予定について話し合った